

2016年

鎌倉人・第26号

鎌倉市議会議員

永田 まりな



1983年2月19日生まれ 33歳 AB型 七里ガ浜在住

聖路加幼稚園、七里ヶ浜小学校、北鎌倉女子学園中学校、鎌倉高等学校、フェリス女学院大学卒業

2004年度ミス鎌倉 鎌倉ケーブルテレビリポーターを経て大学卒業後はフリーアナウンサーとして活動

2013年市政へ挑戦 4月鎌倉市議選初当選 総務常任委員会・広報委員会副委員長・農業委員会担当

6月定例会報告①

平成28年6月定例会は、6月15日（水曜日）に開会し、6月30日（木曜日）に閉会しました。今定例会は市民の方から出された陳情も多く審議されましたが、その中から私が所属している総務常任委員会に付託された「避難所想定施設へのダンボールベッド供給体制」についての陳情についてご報告します。避難所における要介護者など床上生活が困難な方への環境改善のため、ダンボールベッドの供給体制を求めるといえるものです。陳情者は熊本地震に際し、実際に熊本の医療支援入りをされた医師の方で、実際の現場を体感する中でダンボールベッドが現状には適しているとのことで提出されたものです。担当原局によれば逗子市や平塚市なども関西圏の業者との協定を結ぶなどダンボールベッドを取り入れる自治体が増えている、とのことで、鎌倉市としても福祉の観点からも有効なものであると考えているとのことでした。災害時、余所から物資の提供が受けられること、高齢化が進む鎌倉市にとっても有効な手段であることから、下欄へ続く

6月定例会報告②

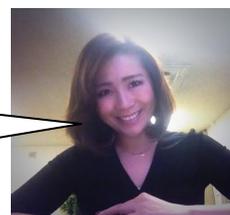
私たち鎌夢会はこの陳情に賛成の立場から結論を出すことを主張しました。

委員会では一部委員が継続を主張しましたが、多数が結論を出すこととし、その後継続を主張した委員も採決に合わせ総員の賛成で可決されました。

15日の本会議採決でも総員の賛成により可決されました。

鎌倉市には被災地で活動をされている方が多くいらっしゃいます。今後もこういった方々からの声を受けとめ、市として現段階での最適な防災体制を更新していただきたいと思います。

連絡先は
下記の通りです



〒248-0025 神奈川県鎌倉市七里ガ浜東 5-1-12

TEL/FAX 0467-31-1746

Email : nagatamarina2013@gmail.com

HP : <http://nagata-marina.com/>

FB : 「永田まりな」で検索！

www.facebook.com/nagatamarina.kamakura

Twitter : @nagamari0219

毎月第3土曜日に市政報告会「まりな会」を実施中

（議会月を除く…詳しくはHP等にてご確認ください）

【討議資料】

6月定例会報告③ 永田まりな一般質問報告

今回、私は、

◆市役所の就労環境について

1 女性就労の視点から

2 健康経営の視点から（職員の心身の健康を守ることが経営面にプラスになるという観点から）

◆地域の安心・安全について（鎌倉高校前踏切近辺の観光客対策についてお願いしました）

以上の二点について一般質問を行いました。女性就労の視点についてを中心にご報告します。

女性就労の視点については昨年より提案し続けているテーマであります。今回は市役所内の女性職員の環境について質問しました。現在鎌倉市に女性部長はおりません。管理職、という枠組みにおいても鎌倉市の割合は4.5%で県内でも最も低い数字となっています。その一方で産休・育休を経た職員の離職率は低いことから、働き続けるための制度、環境はあるものの、キャリアアップに対する制度、環境が整っていないことが伺えます。現状把握の為、以前よりお願いしていた女性職員に向けた就労に関する意識調査アンケートの実施についての進捗を伺ったところ、7月にも行える様策定している、とのこと。また、策定にあたっては産休・育休経験者の女性職員にも加わっていただいたいと聞いてまずは安堵しました。しかし、女性の就労環境については問題点を立体的に把握するためには「経営層」「管理職層」「女性層」の3つのグループに同じ問いを投げかけて回答を貰う方法もあり、これらの回答を領域毎・グループ毎に分析して問題点を抽出し、課題着手の優先順位を設定していくとのこと。そこで管理職に対するアンケート実施もお願いし、実施する旨答弁をいただきました。また、職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス（仕事と生活の両立）を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、



組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と

私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）の

ことを「イクボス」とし、イクボス宣言を行う企業、

自治体があり、神奈川県では2月に神奈川県が、

県内自治体では、4月に平塚市の幹部職員が県内で初めて、

また5月には大和市の幹部職員がイクボス宣言をして

います。鎌倉市も1月にイクボス研修を受けており、

今後は是非イクボス宣言を、とお願いをしてところ、宣言

をしていきたいと答弁をいただきました。イクボス宣言

は決してポーズではありません。宣言をする以上、現在

の管理職割合のままでは笑われます。市長も全ての市民にとって暮らしやすい社会を築くためにも女性職員の活躍の推進に積極的に取り組んでいくとの決意をお話されましたので今後の推移を見守っていきます。女性の活躍とは…私はライフスタイルの変化に影響を受けやすい女性が働くスタイルを選択できる自由があることを指すと考えています。そしてその選択肢を設けるのは、行政の仕事だと考えていますので、今後も提案を続けていきたいと考えています。

◆地域の安心・安全について

鎌倉高校前踏切近辺の観光客対策について。某人気漫画の影響で近年海外からの観光客であふれ、交通マナーなどの観点からも近隣住民や通行中の方々が多くの負担を強いられています。東京オリンピック・パラリンピックに向けてインバウンド対策への取り組みが重要とのご答弁でしたが、約1年ほど対策をうってこなかったことへの不安感があります。防犯カメラ、警備員の設置、配備も含め、警察や江の島電鉄さんとの協議、対応を求めたところ、防犯カメラの補助についても検討し、関係団体との協議も行っていくとのことでしたので今後も注視していきます。